

別表第2 整地・運搬・積込み用機械

2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）

検査対象の構造及び装置		検査方法	判定基準
2.1.1 原動機	ディーゼルエンジン	別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.1.2 動力伝達装置	(1) 主クラッチ (2) クラッチペダル 又はインチングペダル (3) クラッチケース	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(4) イナーシャブレーキ及びインターロック	① アイドリング状態でクラッチを切り、イナーシャブレーキの作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
		② 走行中にエンジンの回転を上げ下げし、インターロックの作動の適否を調べる。	② 正常に作動すること。
	(5) トルクコンバーター（ダンバーを含む。）	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(6) ユニバーサルジョイント	① エンジンを低速から高速まで急加減速させて、異常振動及び異音の有無を調べる。	① 異常振動及び異音がないこと。
		② シャフトの曲がり、スプライン部の摩耗並びにジョイント部の損傷及びがたの有無を調べる。	② 曲がり、摩耗、損傷及びがたがないこと。
		③ 連結部のボルト及びナットの緩み、損傷及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み、損傷及び脱落がないこと。
	(7) トランスミッション	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(8) 操向機構（横軸を含む。）	① 走行させて操向レバー又はペダルを操作し作動の適否を調べる。	① 異音及び滑りがなく、かつ、確実に作動すること。
		② レバーを操作し、遊び及び引きしろの適否を調べる。	② 遊び及び引きしろが適正であること。
		③ レバーを操作し、ロッド、リンク、軸受部及び接続部のがた並びに各ピンの腐食の有無を調べる。	③ がた及び各ピンの腐食がないこと。
		④ ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	④ 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		⑤ ケースからの油漏れの有無を調べる。	⑤ 油漏れがないこと。
	(9) ステアリングモーター	別表第1の「1.2.1 油圧装置」の「(6) 油圧モーター」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(10) ファイナルドライブ（HSTの走行減速機を含む。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	

2. 1. 3 走行装置	(1) 起動輪及び遊動輪	別表第 1 の「1. 4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(2) 上下転輪（別名上部ローラー及び下部ローラー）（ボギーを含む。）	① 亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	① 亀裂、変形及び著しい摩耗がないこと。
		② 走行させて軸部の異音及び異常発熱の有無を調べる。	② 異音及び異常発熱がないこと。
		③ 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。
		④ ローラー軸部からの油漏れの有無を調べる。	④ 油漏れがないこと。
		⑤ 凹凸のある地面を走行させてボギーの作動の適否を調べる。	⑤ 円滑に首振り作動すること。
	(3) 履帯（別名クローラベルト） (4) ゴム履帯 (5) 履帯調整装置	別表第 1 の「1. 4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
(6) トラックフレーム、ダイヤゴナルブレース及びイコライザー	① 亀裂、変形、損傷及びしゅう動部の摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	① 亀裂、変形、損傷及び著しい摩耗がないこと。	
	② 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。	
2. 1. 4 制動装置	(1) 走行ブレーキ	① ペダルの遊び及びペダルを踏み込んだときのペダルと床面との隙間を調べる。	① ペダルの遊び及びペダルと床面との隙間が過大又は過小でないこと。
		② 走行させてブレーキの効き具合及び片効きの有無を調べる。	② 効き具合が適正であり、片効きがなく、かつ、車両系建設機械構造規格第 5 条第 2 項の規定に適合すること。
	(2) 駐車ブレーキ	別表第 1 の「1. 5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(3) ペダルロック	① ペダルを踏み込み、足を離したときの作動の適否を調べる。	① 確実にロックされていること。
		② ロック状態におけるブレーキの効き具合を調べる。	② ブレーキが十分に効いていること。
		③ ロック部の損傷及び摩耗の有無を調べる。	③ 損傷及び著しい摩耗がないこと。
	(4) ロッド、リンク及びケーブル類	別表第 1 の「1. 3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2. 1. 5 作業装置	(1) ブレード、バケット、アーム及びリンク	① 各部の亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	① 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
		② ブレード等を作動させ、各連結部のがたの有無を調べる。	② 著しいがたがないこと。
		③ 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。

	(2) バケットコントロール（トラクター・ショベルに限る。）	① レバーを操作し、バケットポジショナーの作動の適否を調べる。	① バケットが設定した角度で停止すること。
		② レバーを操作し、リフトキックアウトの作動の適否を調べる。	② バケットが設定した高さで停止すること。
	(3) アタッチメント（リッパ、ウインチを含む。）	① リッパ等を作動させ、作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
		② 各部の亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	② 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
		③ 取付け状態を調べる。	③ 適正であること。
	2.1.6 油圧装置	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.1.7 操作装置	操作レバー	レバーを操作し、ストロークの適否及びがたの有無を調べる。	ストロークが適正で、かつ、著しいがたがないこと。
2.1.8 安全装置 2.1.9 車体関係	(1) 車枠及び車体	① 亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと。
		② 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
	(2) キャブ（ヘッドガードを含む。）	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(3) 座席		
	(4) シートベルト		
	(5) 昇降設備及び滑り止め		
	(6) 連結装置	① 亀裂及び損傷の有無を調べる。	① 亀裂及び損傷がないこと。
		② 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
	(7) レバーロック	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(8) 作業装置安全ピン及び安全リンク	亀裂及び損傷の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	亀裂及び損傷がないこと。

	(9) 表示板 (10) スイッチ類及び 灯火類（灯火装置 、警報装置、方向 指示器、窓拭き器 、デフロスターを 含む。） (11) 計器類（油圧計 、電流計、燃料計 、油温計、水温計 、速度計、表示灯 を含む。） (12) 後写鏡及び反射 鏡	別表第 1 の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること 。	
	(13) 給油脂	① 各部の給油脂状態を調べる。	① 給油脂が十分であること。
		② 自動給油脂装置の作動の適否を調べる。	② 正常に作動すること。
	2.1.10 総合テスト	走行及び各作業装置の操作を行い 、機能することを確認し、異常振動 、異音及び異常発熱の有無を調べる 。	各装置が正常に機能し、かつ、異常 振動、異音及び異常発熱がないこと。

## 2.2 トラクター・ショベル（ホイール式のものに限る。）

検査対象の構造及び装置		検査方法	判定基準
2.2.1 原動機	ディーゼルエンジン	別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.2.2 動力伝達装置	(1) トルクコンバーター (2) トランスミッション	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(3) プロペラシャフト (4) デファレンシャル (5) ファイナルドライブ	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(6) チェーンケース（スキッドステアリング式のものに限る。）	① 前進させ、及び後進させて異音の有無を調べる。	① 異音がないこと。
		② 亀裂、損傷及び変形の有無を調べる。	② 亀裂、損傷及び著しい変形がないこと。
		③ ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	③ 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		④ カバー取付け面及び車軸からの油漏れの有無を調べる。	④ 油漏れがないこと。
		⑤ ケース取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	⑤ 緩み及び脱落がないこと。
2.2.3 走行装置	(1) フロントアクスルハウジング及びリヤアクスルハウジング (2) タイヤ（ホイールを含む。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.2.4 操縦装置	(1) ハンドル	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(2) ギヤボックス (3) ロッド及びアーム類	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(4) アーティキュレート機構	① 左右にかじ取りをしてアーティキュレート角度を調べる。	① アーティキュレート角度が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		② 左右にかじ取りをしてセンターピンのがたの有無を調べる。	② 著しいがたがないこと。
		③ センターピン部の亀裂、損傷及び変形の有無を調べる。	③ 亀裂、損傷及び変形がないこと。
		④ ステアリングシリンダーの異常の有無を、別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準により調べる。	
	(5) パワーステアリング装置	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.2.5 制動装置	(1) 走行ブレーキ (2) 駐車ブレーキ	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	

	(3) ロッド、リンク及びケーブル類 (4) ホース及びパイプ	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(5) オイルブレーキ (6) エアブレーキ (7) ブレーキ倍力装置 (8) ブレーキドラム及びブレーキシュー (9) バックプレート (10) ブレーキディスク及びパッド（キャリパー式のものに限定。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(11) ブレーキディスク及びブレーキプレート（湿式ディスク式のものに限定。）	ディスク及びプレートの摩耗状態を調べる。 ただし、ブレーキの効き具合に異常がない場合は、この検査を省略することができる。	摩耗が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
	(12) 駐車ブレーキドラム及びライニング	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(13) 駐車ブレーキディスク及びパッド	① パッドの厚さを調べる。	① パッドの厚さが当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		② ディスク及びキャリパーの亀裂、損傷及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。 ただし、駐車ブレーキの効き具合に異常がない場合は、この検査を省略することができる。	② 亀裂、損傷及び著しい摩耗がないこと。
		③ スプリングチャンバーの作動の適否並びにエア漏れ及び油漏れの有無を調べる。	③ 正常に作動し、かつ、エア漏れ及び油漏れがないこと。
2.2.6 作業装置	(1) バケット、ブレード、アーム（ブームを含む。）及びリンク	① 各部の亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	① 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
		② バケット等を作動させ、各連結部のがたの有無を調べる。	② 著しいがたがないこと。
		③ 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。
	(2) バケットコントロール	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	

2.2.7 油圧装置	(1) 作動油タンク (2) フィルター (3) 配管（ホース類、 高圧パイプに限る。 ） (4) 油圧ポンプ (5) H S T用ポンプ付 属弁 (6) 油圧モーター (7) 油圧シリンダー (8) 方向制御弁 (9) 圧力制御弁 (10) 流量制御弁 (11) 逆止め弁 (12) オイルクーラー	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.2.8 操作装置	操作レバー	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.2.9 安全装置	(1) 車枠及び車体	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.2.10 車体関係	(2) キャブ（ヘッドガードを含む。） (3) 座席 (4) シートベルト (5) 昇降設備及び滑り止め (6) レバーロック	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(7) 作業装置安全ピン及び安全リンク	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(8) 表示板 (9) スイッチ類及び灯火類（灯火装置、警報装置、方向指示器、窓拭き器、デフロスターを含む。） (10) 計器類（油圧計、電流計、燃料計、油温計、水温計、速度計、表示灯を含む。） (11) 後写鏡及び反射鏡	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(12) 給油脂	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.2.11 総合テスト	走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。		各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。

## 2.3 スクレーパー

検査対象の構造及び装置		検査方法	判定基準
2.3.1 原動機	ディーゼルエンジン	別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.3.2 動力伝達装置	(1) トルクコンバーター (2) トランスミッション	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(3) プロペラシャフト (4) デファレンシャル (5) ファイナルドライブ	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.3.3 走行装置	(1) フロントアクスルハウジング及びリヤアクスルハウジング (2) タイヤ（ホイールを含む。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(3) サスペンションアーム（クッションヒッチ、ヒッチピンを含む。）	① 連結部のがたの有無を調べる。	① 著しいがたがないこと。
		② アーム等の損傷の有無を調べる。	② 損傷がないこと。
	(4) サスペンションシリンダー及びクッションシリンダー	① アイドリング状態でコントロールレバー又はスイッチを操作し、シリンダーロッドの伸びを調べる。	① 伸びが当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		② 油漏れ及び損傷の有無を調べる。	② 油漏れ及び損傷がないこと。
		③ 取付け部の亀裂、がた及び緩みの有無を調べる。	③ 亀裂、がた及び緩みがないこと。
2.3.4 操縦装置	(1) ハンドル	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(2) ギヤボックス (3) ロッド及びアーム類	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(4) アーティキュレート機構	この表の「2.2 トラクター・ショベル（ホイール式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(5) パワーステアリング装置	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.3.5 制動装置	(1) 走行ブレーキ	① ペダルの遊び及びペダルを踏み込んだときのペダルと床面との隙間を調べる。	① ペダルの遊び及びペダルと床面との隙間が過大又は過小でないこと。
		② 走行させてブレーキの効き具合及び片効きの有無を調べる。	② 効き具合が適正であり、片効きがなく、かつ、車両系建設機械構造規格第5条第2項の規定に適合すること。



		③ ペダルの踏み具合によってエア混入の有無を調べる。	③ エアの混入がないこと。
		④ リターダーブレーキの効き具合を調べる。	④ 効き具合が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
	(2) 駐車ブレーキ	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(3) ロッド、リンク及びケーブル類 (4) ホース及びパイプ	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(5) エアブレーキ (6) ブレーキドラム及びブレーキシュー (7) バックプレート	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(8) ブレーキディスク及びブレーキプレート（湿式ディスク式のものに限定する。）	この表の「2.2 トラクター・ショベル（ホイール式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.3.6 作業装置	(1) ボウル、エプロン及びエジェクター	① ボウル等を作動させ、異音の有無を調べる。	① 異音がないこと。
		② 各部の緩み及び損傷の有無を調べる。	② 緩み及び著しい損傷がないこと。
	(2) エッジ	① 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	① 緩み及び脱落がないこと。
		② 亀裂及び摩耗の有無を調べる。	② 亀裂及び著しい摩耗がないこと。
2.3.7 油圧装置	(1) 作動油タンク (2) フィルター (3) 配管（ホース類、高圧パイプに限る。） (4) 油圧ポンプ (5) 油圧シリンダー (6) 方向制御弁 (7) 圧力制御弁 (8) 流量制御弁 (9) 逆止め弁 (10) オイルクーラー (11) アキュムレーター	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.3.8 操作装置	操作レバー	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.3.9 安全装置 2.3.10 車体関係	(1) 車枠及び車体	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	

	(2) キャブ（ヘッドガードを含む。） (3) 座席 (4) シートベルト (5) 昇降設備及び滑り止め (6) レバーロック (7) 表示板 (8) スイッチ類及び灯火類（灯火装置、警報装置、方向指示器、窓拭き器、デフロスターを含む。） (9) 計器類（油圧計、空圧計、電流計、燃料計、油温計、水温計、速度計、表示灯を含む。） (10) 後写鏡及び反射鏡	別表第 1 の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。
	(11) 給油脂	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。
2.3.11 総合テスト	走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。

## 2.4 スクレープ・ドーザー

検査対象の構造及び装置		検査方法	判定基準
2.4.1 原動機	ディーゼルエンジン	別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.4.2 動力伝達装置	(1) 主クラッチ	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(2) クラッチレバー	① レバーを操作し、レバーの重さ及び戻り具合を調べる。	① 重さ及び戻り具合が適正であること。
		② レバーの遊びを調べる。	② レバーの遊びが当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
	(3) クラッチケース (4) トルクコンバーター (5) トランスミッション（伝達歯車機構を含む。）	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(6) 操向クラッチ	① 走行させて操向レバー又はペダルを操作し、作動の適否を調べる。	① 異音及び滑りがなく、かつ、確実に作動すること。
		② レバーを操作し、遊び及び引きしろの適否を調べる。	② 遊び及び引きしろが適正であること。
		③ レバーを操作し、ロッド、リンク、軸受部及び接続部のがた並びに各ピンの腐食の有無を調べる。	③ がた及び腐食がないこと。
		④ ケースからの油漏れの有無を調べる。	④ 油漏れがないこと。
	(7) 各ギヤボックス（中央大歯車及びファイナルドライブを含む。）	① 走行させて異音及び異常発熱の有無を調べる。	① 異音及び異常発熱がないこと。
		② ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	② 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		③ ケースからの油漏れの有無を調べる。	③ 油漏れがないこと。
2.4.3 走行装置	(1) 起動輪及び遊動輪 (2) 上下転輪（別名上部ローラー及び下部ローラー） (3) 履帯（別名クローラベルト） (4) 履帯調整装置	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(5) トラックフレーム	① 亀裂、変形、損傷及びしゅう動部の摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	① 亀裂、変形、損傷及び著しい摩耗がないこと。
		② 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。

2.4.4 制動装置	(1) 走行ブレーキ	① ペダルの遊び及びペダルを踏み込んだときのペダルと床面との隙間を調べる。	① ペダルの遊び及びペダルと床面との隙間が過大又は過小でないこと。
		② 走行させてブレーキの効き具合及び片効きの有無を調べる。	② 効き具合が適正であり、片効きがなく、かつ、車両系建設機械構造規格第5条第2項の規定に適合すること。
		③ ブレーキペダルを踏んでブレーキシリンダーのストロークを調べる。	③ ストロークが当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
	(2) 駐車ブレーキ	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.4.5 作業装置	ボウル、エプロン、エジェクター及びドーザー	① 亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	① 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
		② ボウルの底板及び各カッターの摩耗の有無を調べる。	② 著しい摩耗がないこと。
		③ 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。
2.4.6 油圧装置	(1) 作動油タンク (2) フィルター (3) 配管（ホース類、高圧パイプに限る。） (4) 油圧ポンプ (5) 油圧シリンダー (6) 方向制御弁 (7) 圧力制御弁 (8) 逆止め弁 (9) アキュムレーター	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.4.7 操作装置	操作レバー	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.4.8 安全装置	(1) キャブ（ヘッドガードを含む。）	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.4.9 車体関係	(2) 座席		
	(3) シートベルト		
	(4) 昇降設備及び滑り止め (5) 表示板		
	(6) 警報装置	スイッチ類を操作し、作動の適否及び取付け状態を調べる。	正常に作動し、適正に取り付けられていること。
	(7) 計器類（油圧計、電流計、燃料計、油温計、水温計、速度計、表示灯を含む。）	エンジンを回転させた状態及び走行状態で、各計器の作動の適否を調べる。	正常に作動すること。
	(8) 後写鏡	汚れ及び損傷の有無並びに写影の状態を調べる。	汚れ及び損傷がなく、かつ、写影が正常であること。

	(9) 給油脂	各部の給油脂状態を調べる。	給油脂が十分であること。
2. 4. 10 総合テスト		走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。

## 2.5 モーター・グレーダー

検査対象の構造及び装置		検査方法	判定基準
2.5.1 原動機	ディーゼルエンジン	別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.5.2 動力伝達装置	(1) 主クラッチ (2) クラッチペダル 又はインチングペダル (3) クラッチケース (4) マスターシリンダー	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(5) パワーシリンダー	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(6) トルクコンバーター (7) トランスミッション	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(8) ファイナルドライブ（ベベルギヤを含む。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(9) タンデム装置	① 走行させて異音の有無を調べる。	① 異音がないこと。
		② ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	② 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		③ ケースからの油漏れの有無を調べる。	③ 油漏れがないこと。
2.5.3 走行装置	(1) フロントアクスル	① 亀裂、損傷及び変形の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	① 亀裂、損傷及び変形がないこと。
		② センターピン及びリーニングピンとの結合部の損傷及びがたの有無を調べる。	② 損傷及びがたがないこと。
	(2) タイヤ（ホイールを含む。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.5.4 操縦装置	(1) ハンドル	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(2) ギヤボックス (3) ロッド及びアーム類	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(4) ナックル及びナックルブラケット	① ナックルとキングピンとの連結部のがたの有無を調べる。	① がたがないこと。
		② ナックルとナックルブラケットとの隙間を調べる。	② 隙間が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		③ 亀裂の有無を調べる。	③ 亀裂がないこと。

	(5) かじ取り車輪 (6) パワーステアリング装置（油圧倍力装置を含む。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(7) アーティキュレート機構	この表の「2.2 トラクター・ショベル（ホイール式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(8) 油圧シリンダー（ステアリング用、リーニング用、アーティキュレート用に限る。）	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.5.5 制動装置	(1) 走行ブレーキ (2) 駐車ブレーキ	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(3) ロッド、リンク及びケーブル類 (4) ホース及びパイプ	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(5) オイルブレーキ (6) エアブレーキ (7) ブレーキ倍力装置 (8) ブレーキドラム及びブレーキシュー (9) バックプレート	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(10) ブレーキディスク及びブレーキプレート（湿式ディスク式のものに限る。）	この表の「2.2 トラクター・ショベル（ホイール式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(11) 駐車ブレーキドラム及びライニング	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(12) 駐車ブレーキディスク及びパッド（キャリパー式のものに限る。）	① パッドの厚さを調べる。	① パッドの厚さが当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		② ディスク及びキャリパーの亀裂、損傷及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。 ただし、駐車ブレーキの効き具合に異常がない場合は、この検査を省略することができる。	② 亀裂、損傷及び著しい摩耗がないこと。
	(13) 駐車ブレーキディスク及びプレート（スプリングチャンパー式のものに限る。）	① ディスクの厚さを調べる。 ただし、駐車ブレーキの効き具合に異常がない場合は、この検査を省略することができる。	① ディスクの厚さが当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		② ライニングの剥離、損傷及び摩耗の有無を調べる。	② 剥離、損傷及び著しい摩耗がないこと。

		③ スプリングチャンバーの作動の適否及びエア漏れの有無を調べる。	③ 作動が正常で、かつ、エア漏れがないこと。
2.5.6 作業装置	(1) サークル	① ブレードを地面に下ろし、ガイドシューとサークルの隙間を調べる。	① 隙間が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		② サークルギヤの亀裂、損傷及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	② 亀裂、損傷及び著しい摩耗がないこと。
	(2) ブレード回転ギヤケース	① ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	① 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		② ケースからの油漏れの有無を調べる。	② 油漏れがないこと。
	(3) ブレードレールガイド	ブレードを移動させ、レールとガイドの隙間を調べる。	隙間が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
	(4) ブレード及びスカリファイヤ	① ブレード等を作動させ、異音及びがたの有無を調べる。	① 異音及び著しいがたがないこと。
		② 損傷及び変形の有無を調べる。	② 損傷及び著しい変形がないこと。
		③ カッティングエッジ及びツースの摩耗の有無を調べる。	③ 著しい摩耗がないこと。
	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
2.5.7 油圧装置	(1) 作動油タンク (2) フィルター (3) 配管（ホース類、高圧パイプに限る。） (4) 油圧ポンプ (5) 油圧モーター (6) 油圧シリンダー (7) 方向制御弁 (8) 圧力制御弁 (9) 流量制御弁 (10) 逆止め弁 (11) 回転継手	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.5.8 操作装置	操作レバー	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.5.9 安全装置 2.5.10 車体関係	(1) 車枠及び車体	① 亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと。
		② 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
	(2) キャブ（ヘッドガードを含む。） (3) 座席 (4) シートベルト (5) 昇降設備及び滑り止め (6) レバーロック	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(7) 作業装置安全ピン及び安全リンク	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	



	(8) 表示板 (9) スイッチ類及び灯火類（灯火装置、警報装置、方向指示器、窓拭き器、デフロスターを含む。） (10) 計器類（油圧計、電流計、燃料計、油温計、水温計、速度計、表示灯を含む。） (11) 後写鏡及び反射鏡	別表第 1 の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(12) 給油脂	この表の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
2.5.11 総合テスト	走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。		各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。